

4312 **ママチャリ日本縦断の旅：鹿児島～京都・心模様**

**セブンティからのチャレンジ、海外だけでなく、日本も知りたい。**

**最南端、鹿児島から、北上。可能なら京都まで、夢挑戦。**

**駄目なら駄目で、中断すればいい。海外ではない。何とかなるとの思い。**

ママチャリ自転車目線や、まだ見ぬ光景。

天草へ単身移住した友人とも再会したい。どんな旅になるか楽しみ。

**鹿児島～京都間。**

今一度、心も身体も鍛え直しもしたい。

大きくは期待していない。思い通りには行かないだろうが夢挑み。

中四国は、四国の太平洋側に進路をとるか、

四国は自転車屋さんが、少ない？のでパンクが心配。

山陰地方の日本海側を、京都までのコースを選択するか。

旅立ち前に、先入観を、持ちすぎると、ひとり旅が、面白くなくなる。

まず、九州が問題。何事も始めなければ始まらない。

臨機応変に判断すればいい。

6月だった。内裏の仕事でストレスが蓄積。心身に悪い。

身体と時間と状況とサムマナー。**アトリエ休業**や、**身辺整理**。時間を創った。

この心模様、掲載される頃には、九州最南端に  
身を置いているかも知れないとも、心模様に書いていた。

次のようなことも。

自分でも思いもかけなかったが、

今一度、**長期の旅に出かけられる状況が出来た**。有難い。

しかし、人には話せない。貫徹できるか不安もある。楽な旅ではなさそう。

知恵と創意工夫が試される。**得るもの。失うもの。**

出来る時に、出来る事を、実践。これまでの集大成の、**縦断ひとり旅**。

いろいろな出会いというか、試練にも直面するかも知れない。

いや、するだろう。それは自業自得の自己責任。面白い楽しい旅にしたい。

果たして、どうなるか。そんなことを書いていた。

若い時とは、状況が違う。

今だから、一人旅は、一層、味わい深い旅になるかも知れない。

プラスばかり考えている訳ではない。

マイナスもあるだろう。ママチャリ自転車と歩き。

出会うものが違ってくる。年齢目線や感性もある。発見や気づき、

ポジティブになると、出会いが面白くなる。楽しみ。

**楽しく、想像しているうちが、花。**

上りの坂道は、歩き。下りは、ママチャリ自転車、無理は禁物。

気を引き締めて、慎重に。そんな思いのスタート。

九州も、自動車では、何度か訪ねている。

アンデルセン「旅は精神の若返りの泉だ」

デンマークの作家 アンデルセン

「旅は、私にとって、精神の若返りの泉だ」と。

織田信長、本能寺での最期、人間 50 年、紅蓮の炎の中、消えて行く。

これ映画のシーン。NHK大河ドラマ、「麒麟がくる」

明智光秀の寿命は、55歳だった。

50 歳の夢挑戦から、四半世紀の 25 年が経過。

光陰矢の如し。

五木寛之著書「林住期」によれば、

古代インドでは人生を四区分に考えたという。

「学生期」「家住期」、そして、「林住期」と「遊行期」

「林住期」とは、社会人として務めを終えたあと、すべての人が迎える、

もっとも輝かしい「第 3 の人生」のことである、と。

大切なのは過去でなく、未来に続く、足元の、今が大切。

平等に与えられている、時間をどう使うか。

大学教授である森毅様は、人生 80 年、20 年を 4 分割として書かれていた。

人生百年の時代も迫ってきている。空想の話ではないと。

人の一生、60 歳を還暦、中国唐代の詩人、杜甫の詩には 70 歳が古希。

昭和 20 年(1945 年)敗戦当時の日本人平均寿命は 49.8歳、

人生 50 年もみたくない。

昨今、男性でも平均寿命 80 歳を超える？

心身の健康年齢が、問題。 2019 年 5 月から、令和元年が始まった。

夢挑みのトレーニング。可能ならタイミングを見て、

まだまだ、旅に出たい。 **そのためには心と体、日常のトレーニングが大切。**

2019 年 9 月も、綾部や亀岡、篠山、10 月も檀原神宮、

明日香(飛鳥)路から、奈良経由、京都大徳寺アトリエまで、ママチャリ。

夜道に日は暮れない。筋肉貯金とはいかないが、

懲りずに、背伸びの日々。

付いて回る、現実や状況がある。延期や仕切り直しの繰り返し。

大変だが、面白く、楽しいから、続けられる。

自然からパワーをもらえるのが有難い。 独りよがりだが、自分自身を鼓舞。

いつまでできるか、不安も、同居。

人生も旅も、選択と決断の繰り返し。準備と覚悟が決まった。

旅のスタイルは、九州最南端からママチャリ自転車で京都まで戻れたら幸い。

薩摩藩の参勤交代や NHK テレビの篤姫の行列も脳裏に。

このコースの真似はしない。ルートも自由気ままに東に西に南に北に。

話を元に戻して、デンマークの作家 アンデルセンが言うように、

**旅は私にとっても、精神の若返りの泉。**

多分、四苦八苦するだろう。

無計画、目的地も行程も決めず、心のおもむくままに、  
気の向くままにさすらう。 そんなひとり旅は、**夢の、また夢だった。**

嘘だろう。しかし、どうしたわけか、そうなってしまった。

高齢化は世界共通。後ろ向きの話ではない。

デンマークと日本、どこが違うのか。北欧 55 日間の旅、

デンマークは 1 週間しか滞在しなかった。

マルメやオーデンセにも足をのぼした。 文化芸術だけでない。

市場や食材、生活にも興味があったので訪ねた。

何しろ、いろいろあっていま一人。

料理?もやらざるを得ないものの、**勉強すると面白い。**

いま少し早く気づいていれば、また、人生変わっていたかも知れない。

**DIY 生活。 心身健康最優先が現時点の関心事。**

難しい課題。 快食、快眠、快便。 身体を動かすことが、最優先事項。

**いかに生きるか。**後ろ向きの話ではない。前向きな話。

人生、まだまだ、これから。高齢は高齢なりの生き方を極めたい。

若い人がこれから通る道。 **現実を、真正面から見つめる。**

四苦八苦の四苦は、老病死生、**避けられない。**

その領域に突入か。暑い暑いと言っても、夏の暑さは変わらない。

過剰な冷房は身体に悪い。 **楽と便利は、敵と意識したい。**

いささか変人を徹底したい。小学生 3 年生並にも動けないでは困る。

その領域かも？ **40~50 歳代でも、老人、高齢者はいる。**

個人差もある。環境や状況も違う。今、大丈夫そうだが、先の保証はない。

デンマークは、社会保障が行き届いた国、

中年から高齢者の顔色はいかがなものか。余裕のある顔か、

考え方が、否定的ネガティブでなく積極的か。

そんなことも脳裏の片隅にあったので観察、デンマークの皆様、ポジティブ。

積極的と判断。 **日本人の私は、どうなのか。**

**生き甲斐や、目標**を創らないと、負の連鎖、悪循環になりがち。

人間の価値観や考え方や感性は、多種多様。昭和の人間は、我慢強いという。

**令和元年。久楽には、人生の節目、**

いい機会なので、**生き方、生き様、再検討**しているところ。

世界を旅して、日本人のアイデンティティ、今一度、再確認したい。

他人様に、迷惑をかけずに、依頼心でなく、

**自律、自立した生き方**を、これからも模索。**キーワードは、日々継続。我慢。**

旅という**夢挑戦の後の、厳しい現実も、覚悟**している。

やらないより、やったほうが、後悔は、小さい。自業自得。努力したい。

これからは急がず、淡々と、蝸牛、登らば、登れ、一步一步。

**いつ何が起こるか。人生は変化に富んでいる。**

いいことばかりは続かない。いろいろあったから、今日がある。

**ライバルは、今一人の自分自身。**

過去、現在、未来。九州の旅は「林住期」の締めくくり。

「遊行期」の始まりと心得ている。人生 **100 年時代、これ、大変な難題。**

心身健康を維持するには？ 現実のものとできるのか、不安一杯。

四苦八苦とは、思い通りに行かない、という意味もある。

しかし、**やるしかない。**



今回、旅の途上、**画像記録**どころではない状況も、たびたび体験。

九州の旅始め、車では何度も旅をしていて、  
記録画像・久楽コレクションを蓄積している。内外の画像、  
いろいろ変化をつけて、発信できたらと思っている。

**理屈っぽくなる自分は、好きになれない、が**

これも致しかたなし。汗かく、恥かくも結構。アナログの昔人間。

**今に全力投球するのみ。**

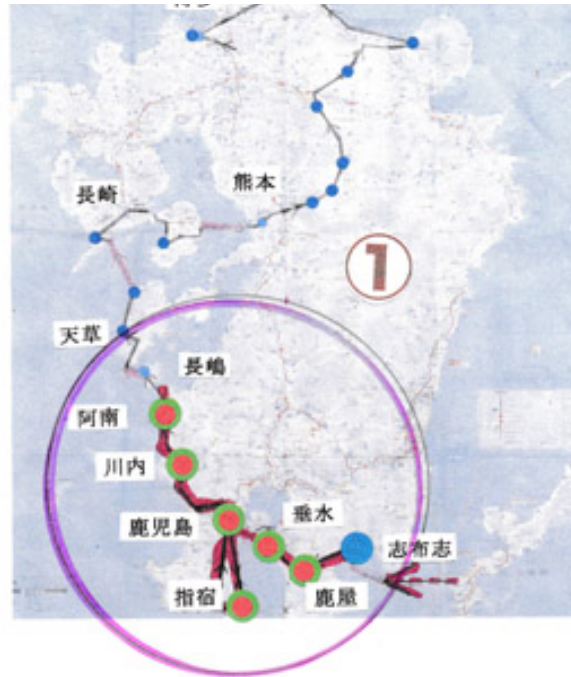
結果としての、九州のコース・足跡記録地図を下記に。

面白く無くなる可能性もあるので、

九州、中四国の画像記録も、時折、発信、挿入するのも、一案かと、

心模様を、最後までかけるかも課題。

出来ることしか出来ない。



心模様も、「蝸牛、登らば、登れ、富士の山」

もう、HP、「風と共に去る」時期が、到来しているのではないか。ふと、

弱気な心境になることもあるが、自分に負けたくない。

**試練は、自分を高めるチャンス。**

冷や汗になるかもしれないが、もう一汗、流す選択をすることを決断。

人生は、選択と決断の繰り返し。

**脚下照顧・的を絞って、今に、全力投球、するのみ。**